

# 高知西南地域における地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間  
21～23年度

＜目指す方向：高齢化社会を見据え、命綱である公共交通を維持、拡充する＞  
その実現のため、高知西南地域の特性を新たな展開の原動力に、公共交通を地域で支えて行く意識の醸成・土佐くろしお鉄道やバス会社の経営基盤の強化・利用者の視点に立った環境の整備を行う

## 高知西南地域公共交通協議会

### 【区域】

宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町、四万十町

### 【委員構成】

住民代表、土佐くろしお鉄道(株)、高知西南交通(株)、公安委員会等、道路管理者、国土交通省、市町村、高知県、その他(高等学校校長会、観光コンベンション協会)

## 事業の概要(22年度)

(94,577千円)

### 【鉄道】

・ラッピング列車(市町村毎に  
独自にデザイン)



・実証運行(増便)

・駅改修(案内所・トイレ)



・高機能券売機設置



・低誘虫性蛍光灯への交換



### 【共通】

・鉄道・バス共通回数券



・免許返納サポート割引



・公共交通サポーターズクラブ

・イベント列車



・鉄道・バス接続ポケット時刻表

・駅まつり、広報チラシ等

### 【バス】

・実証運行



・停留所整備



・鉄道列車とのラッピング連携

・車両改造(トイレ設置、リクライニングシート設置)等



## 22年度 導入への プロセス

21年度に実施できなかった事業の見直し  
・駅に愛称つけマイレール意識を高揚  
→ 現駅名に愛着、逆効果になる恐れ→中止

21年度からの継続事業  
・バス実証運行不振  
→実証運行の意義、経過を住民に広報  
・サポーターズクラブの展開  
会員への周知方法、組織作りの検討

21年度実施結果による課題  
・観光担当部署との調整、連携

22年度の新規事業  
・イベント車両・キャラクター車両導入  
→一過性にならず、地域イベントで活用でき、かつ魅力的な車両の検討  
・券売機設置  
→利便性向上面から、販売委託を含めて再調整

## 22年度 事業の 効果

### 利便性の向上(増便)

【実証運行(増便)】宿毛線の普通列車の増便は、クラブ活動をする学生達等に、利用しやすくなったと好評。通学定期利用者が増加している。(H20年度比較15%増。特に宿毛線は19%増。)

【サポーターズクラブ】会員数約3,500人(H23.3末)。実行委員会を立ち上げ、意識高揚のためのイベントを企画。「列車清掃」企画には、地元高校生や市民約20名が参加。

### マイレール意識の高揚

【市町村ラッピング列車】市町村ごとに独自のデザインでラッピング。地元学生がデザインするなど、地域色豊かなデザインに仕上がっている。

【宿毛駅改修】コンコースに案内専用スペースを整備。利用者からの苦情の多かったトイレを改修(洋式・バリアフリー)。お客様から、案内所が分かりやすい場所にあった良かった、トイレも綺麗で使いやすくなったと好評。

### 利便性の向上(駅・待合環境の改善)

【駅ホーム蛍光灯交換】夏場の虫の苦情が多いことから、実験結果効果を確認した上で、全駅ホームの蛍光灯を「低誘虫性蛍光灯」に交換。

### 利便性の向上(車両改修)

【バス改修】路線バスの一部に「リクライニングシート」を導入。また長距離路線バスに「トイレ」を設置。乗客の安心感にも繋がっている。

利便性の向上・環境の整備・情報提供(広報)などを更に充実させ、利用促進を図っていく。

## 次年度 以降

22年度鉄道利用者数は、前年度4.3%増の752千人であるが、事業導入前の20年度と比較しては1.2%の減となっている。通学定期の利用者は増加しているものの、定期外利用者の減少幅が大きくなっている。

今後は更に観光目的の利用者増に努めることで、定期外利用者の減少に歯止めをかけ、地域活性化に貢献していく。

22年度に改修した市町村デザインラッピング列車・バスを、各地域のイベントに活用するなど、利用促進・地域活性化・マイレール意識の高揚などを図っていく。

子供たちに「鉄道・バスの乗り方教室」を実施するなど、小さなころから公共交通に馴染んでもらい、保護者も含めて公共交通に対する意識的なハードルを下げっていく。